京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年　紀元二千五百七十年
本紙定價　一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金　五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

雜錄

内外應酬

一記者

▲人事と感情　人間は感情の動物であると人間がいふ、他の感情は重んせざる可からずと同し人間がいふ、他の感情を重んずとは自らの感情を重んずるより起ることにして、決して犧牲的觀念から來るのでは無い、併しながら感情の動物たる人間は之れを利用して社會組織の最大要素として居るのである、而して百般の人事一つとして感情の加味されざるは無い、斯の如く人間に於ける感情の勢力は偉大なるものがある、然るに茲に不思議なるは、斯くも偉大なる勢力を人間に有する感情其のものは多くの場合甚だ蔑視さるゝことである、換言すれば人間は自ら感情の動物なりと稱することを耻辱とせぬにも掲らず事に當りて感情の發作は醜陋とせらるゝことである、其の何が爲めに斯るかは頗ぶる奇異とすべき且研究すべき問題であらうと思ふ、而かも其研究たるや抽象的に事物を離れて爲され得べきもので無い、因て例を擧げて之れを試みやう。

▲感情と裁判　判官が裁判を爲すに際りては、其感情の投影をだに古來禁物とされて居る、昔者大岡越前守は障子を隔てゝ訟を聽いたとある、之れは言ふ迄も無く被告原告の風貌によりて愛憎の念を起してはならぬ、即ち感情に依て是非の判斷を誤られてはならぬといふ心からの注意で、一の美談とされて居るのであるが、大岡越前守は、其の自ら行へる斷訟が、感情の要求に依りて理性の發露を致し初めて正邪曲直の判別を誤ち無かつたことを覺つて居たであらうか、譬へば障子を隔てゝ罪人の言を聞き先づ之れに向つて加へらるゝは判官の感情である、尋で理性の判斷となるのである、罪人若し『私は主人を殺害しました』と自白したりとせよ、奉行大岡は刹那に當時の法章が示す處を意識して、殺人は罪惡なり主人を殺したるは一層重き罪惡なりとの判別を爲したであらうか、或は憎むべき奴が惡業かなどの感情は起ら無かつたであらうか、吾輩は彼れも亦人間であることを知るが故に、必ずや後者を否認し能はざるものと信ずるのである、唯彼の判決が感情に捕はれ無かつたといふことが彼れの美名を成す所以である、之れを今日の裁判に見ると感情の裁量を絶對に拒否しない、著しき例は刑の執行猶豫の如きである、之れは因より見れば法律の定むる處に據り理性の判斷に俟つべきであるが、又一面より見れば感情の裁量は少からざる部分を成して居るのである。

斯の如く感情の痕跡をだに留むべからざるを原則とせる裁判に於てすら感情の裁量を拒否さる能はざるのみならず吾新刑法の如きは舊刑法に比して幾分感情の裁量を自由にしたる形跡を見るのである、然るにも拘はらず世人は努めて感情を總ての人事から除かんと欲する氣勢を示す、夫婦喧嘩の仲裁になら『君爾う感情に驅られては不可』など常に耳にするところである、此の場合は『爾う』『驅れては』なんど強ち程度を指すのでは無く、感情其のものを根本より非難するのである、何が爲めであらうか、更に感情と金融との關係に就て此研究を進めて見たい（此稿未完）

大部隊の暴徒

去る二日元山管區新豐店分遣所憲兵上等兵二名補助員五名元山警察署同巡査二名韓巡査一名咸鏡南道安邊郡永豐社地方賊徒搜索中法洞に於て賊徒四十名と衝突し交戰約三時間の後賊は谷山郡方面に逃走し追擊したるも彈藥欠乏したるを以て馬勒里に來り最寄りの平壤分隊に應援を求めたるに依り分隊より上等兵一名補助員三名と同地守備隊より卒三名馬勒里に急行し翌四日協力して石泉洞附近を搜索せしに賊は二日夜同地に宿泊し三日良民二名を銃殺し金八圓を强奪退去し同夜は下金鑑洞に宿泊せる事を探知せしかば同地を搜索せしに賊は首魁朴某の部下四十三名の中洋銃を二火繩銃スミス式拳銃を携さへ居り首魁蔡應人の率ふる二十名は洋銃を余は皆々銃を携さへ居り合併して一隊となり黃海道谷山郡野洞方面に逃走したる後なりしかば引續き搜索中なるが朴某は先に一度歸順したる者なるも再び暴徒の群に投じたる兇漢にして彼の部下には三十三年式憲兵上等兵の服を着し居るもの二名あり暴徒中比較的精銳の部にして良民も彼の名を耳にする時は戰慄する由なり

●國境に馬賊の出沒

國境一帶に於ける淸國馬賊の跳梁は屢々當局者を惱殺せしめ其警戒の一張一弛は忽ち彼等の出沒となり危險名狀すべからざるものあり現に客年十二月中新義州義州の中間正州洞に於て郵便物掠奪事件發生せし以來當局者は不取敢警護の爲め同洞へ新義州及義州兩警察署より交互巡査を派遣し居りしが僅か二名の護衞も彼等を震慴せしめ無事今日迄經過し居れり然るに鴨綠江解氷と共に江上の交通不自由となれる爲め最早其必要なかるべしとて去月三十日限り派遣を中止せしに又々去六日午後十二時義州府古城面麻田洞へ一群の馬賊現はれ通行中の旅人を脅かし金品を强奪せる事件あり之が爲めに當該兩地郵便局長は新義州及義州間郵便物遞送上危險の恐れありとて警護方請求ありたるを以て七日より再び巡査一名を付し居れりと

●各地水道の竣工期

兼て繼續事業として工事持續中の土木局所管の三水道工事中仁川及釜山は八月頃迄に全部竣成九月より一般給水の運びとなるべし尙平壤は同囑託川上博士最近來審の上機關の試運轉をなし通水は來月より開始五月中は充分管内の汚染を洗滌し給水は六月となるべし

滿洲製糖計畫

日淸合辦事業

▲滿洲と糖業　大連營口を經由して奉天方面に輸入さるゝ砂糖は隨分の巨額にて昨年は二十一萬千六百五十四擔價格に於て百一万四千二百十四海關兩に達せるが此外馬車或は人力を以て輸送せられたるものを合算すれば更に夥しき數量に達すべく且つ近時交通機關の發達と共に地方農民の生活は漸次向上し從つて砂糖の需用の如きも今後益々增加するは自然の勢にして且勞銀低廉なるのみならず甜菜の栽培に適するを以て日淸資本家の共同事業として同所に製糖會社を創立し彼の北滿洲阿汗河に於ける露人の經營せる製糖所に倣ひ砂糖の製造をなすは頗る有利なるべしとの小池總領事の調査報告に基き東亞興業會社は該報告書を株主に配付し其意向を尋ねつゝあるが何も大体に於て反對あらざるが如く目下小池總領事も歸京中なれば何れ東亞興業の事業として經營するか若しくは同會社關係者並に其他の有志者と結合して同計畫の實行を見るに至るべき摸樣なり尙ほ今滿洲に於ける甜菜栽培の成績を聞くに左の如しと云ふ

▲甜菜栽培の有利　奉天農事試驗場に於て製糖原料たる甜菜栽培を試みたる角田農學士の實驗せる所に依れば甜菜の收穫は一畝（二百四十坪）に對し四千斤乃至六千斤にて其糖分含有量は本年の分析結果十二乃至十八パーセントにして製糖原料として決して不利なるものにあらず即ち米國にては製糖會社は原料として十二パーセントの糖分を含有するものを購入し居り其代價は一噸九圓見當なり而して當地に於ける試作の結果は以上の如く一畝に於て四千斤乃至六千斤即ち二噸半乃至三噸の收穫を得るを以て假に前記の相場にすれば一畝にて二十二圓五十錢乃至二十七圓の收入を擧げ高粱或は大豆の栽培よりも三倍の收入を得るに至る計算なり

▲甜菜と農業改善　獨逸に於て甜菜の栽培着手以來內國に於ける一畝の穀類平均產額は漸次增加し且つ家畜の數も亦著しく增殖したりとの事なれば滿洲の農業改善の上より見るも製糖業創設の利益は決して少なからざるべしと云

日本銘刀傳

第九十三席　邑井一講演

法城寺正弘（十五）

島田重太郎は以前は隨分放蕩もしましたが、今ではスツかり改心をして、父より傳つた業務を熱心に遣つて居る、前にも申しました通り此島田の家は仙臺藩の刀鍛冶でありまして、江戸の住宅は三番町にあります、三百坪計りの廣い屋敷で其南と東の隅に仕事場が設けてある、毎日重太郎は烏帽子を冠り裝束を着て、トンカチン〳〵と鎚つて居る、れ花は自分は卑しくの因緣で幼少の折柄苦勞をし育ち、折角吉原の三浦屋へ貰はれて往つたけれど、其養家も潰れてしまひ、悲い辛らい事許り、然し幸ひにも重太郎のために受出されて、斯うやつて兩人嬉しく樂んで居るから少しは安心をしたと喜んで居る甲斐もなく、夫の重太郎がフトした病氣で病の床に就いた、今日で云ム肺病、血を吐いてトウ〳〵死んでしまつた、運の惡いものは何處までも運が惡いのか、遂に夫にまで死なれてしまつたかと、泣く〳〵葬式を濟ませました、まだ重次郎は七才の子供、何うすることも出來ない、すると其頃有名な彫刻師で濱野規隨と云ふ人がある、此濱野は有名な彫刻師で重太郎とは大變懇意にして居ましたから、此濱野の所へ重次郎を預けて種々と仕込んで貰うことにしました、所で一寸此濱野の御話しを申上げなければなりませんが、此矩隨と云ふ人も幼少の折に父親が亡なつて年老つて居りまする阿母さんと一人、芝濱松町に居りまする處が、親父の半分も仕事が出來ません、華客は減つて仕舞ひ、今日を微かに送つて居りますする、然るに芝神明前の若狹屋甚兵衞と云ふ藥物屋がございまして、是は財產家で此處の家で規隨を大層可愛がつて居ります、成田の事で　矩「エ、御無沙汰を致しました　甚「何うしたい矩隨さん、久しく見へなかつたが　規「へエ阿母が風邪を惑きましたのが、初めで大層熱が出まして、一時は大きな心配を致しました　甚「アヽさうかい、また寢て居るかね　規「漸く宜い方へ向きましてございます　甚「夫れは結構だ、今日は何か御用かね　矩「旦那樣、金物を彫りましたが、一つれ買ひ下されは有難う存じます　甚「買つても宜いが矩隨さん、れ前の彫つた物が箱に一ぱいあるが一つも賣れない、今日は何を彫つて來たね　矩「へエ猪を彫つて來ました　甚「ハヽア猪を……ドレ拜見しませう……ハヽア是が猪かへ、何方が頭だね　矩「是が頭で　甚「成程、是れが頭か、不思議な物を拵へたね、マア〳〵親孝行を買ふんだ二朱持つて御出で　矩「有難う存じます　甚「マアれ待ちよ……是其折を持つて來な……是はね矩隨さん、貰つた菓子だ一寸家へ行つて、阿母さんの處へ持つて居つて、宜しく申してれ呉れ　矩「有難う存じます　甚「大事にれして　矩「恐れ入りました、夫では是を頂いて參りますと、二朱の金に菓子を貰つて立歸りました、又七八日經つて　矩「先達ては有難う存じました　甚「ア、矩隨さんれ出でか、何うしたい阿母さんは　矩「もうスッカリ癒りました　甚「夫れは宜かつた　矩「今日は金物を彫りまして　甚「又金物かへ、何を彫つたね　矩「狸を彫りました　甚「碌な物は彫らないね、拜見しやう……是が狸かへ、河童が見たやうな顔をして居るね　矩「へエ河童を彫らうと思つたら狸になつてしまつたので　甚「へエ河童が狸に化けたのかい、マア仕方がない二朱持つてれ出で、コレよれ茶を上げな……時に矩隨さん、些と言ひ惡い事だが、れ前事を彫物師を癈めたらどうだへ、迚も此鹽梅では名人になれないよ　矩「ヘエ　甚「れ前れ父さんは名人だつたが、其人の子にれ前のやうな不器用な者が出來ると云ふのは何う云ふものか、此樣な事では阿母さんを養つて行くことは、迚も出來ないから、何か外に商賣を替へたら宜からう、失禮な云條だが、大した商ひも出來まいから、大道商ひでもやるが宜い、資本は貸すと云つたら返さなければなるまいがね、少し位は上げるよ、斯ういふことを思ひ付いたから遣つて見やうと思ふことを、何仕事でも初めた方が宜しからう」



東京電報

▲東宮共進會に御成 皇太子殿下には廿一日午前岐阜より名古屋離宮に入らせられ共進會に成らせらるゝ筈なるが御微行なるも市民は熱誠歡迎の意を表すべしと(十五日)

▲閑院宮と共進會 閑院宮同妃兩殿下は廿一日福岡よりの御歸途名古屋に一泊博覽會御觀覽の筈なり(同上)

▲韓太子と共進會 韓太子は名古屋に二泊廿七日午後御歸京の筈なり(同上)

▲印度王の渡日期 印度バロタル國王は十三日神戸着の豫定なりしが二十日長崎着に延期せられたり(十六日)

▲條約改正の準備 來る四十四年改正すべき條約改正に關しては已に條約改正準備委員會に於て法文の起草を終へ關稅案も議會の協贊を經たるを以て法文並に關稅案は英佛兩國語に譯し目下印刷に附しつゝあり愈々調製の上は十四箇國の大公使に回付して例令其の期限前と雖も豫め意見交換すると共に談交渉を開始する筈なり(同上)

▲黒龍江の馬賊防禦 黒龍江省内に目下馬賊出沒し横暴を極め住民の損害尠からざるより同省衛務所は精鋭なる兵士を派遣し防禦する事となりたる旨其の筋へ電報ありたり(同上)

▲鹽價引下の內定 鹽專賣法廢止案議會に提出せられてより政府は廢止案を根本的に一掃すべくと同時に專賣局の鹽供給を圓滑ならしめ品質を改良すると共に近く鹽價の引下を斷行すべし(同上)

▲曾禰統監の進退 十四日萬朝報が曾禰統監辭表提出せりとの號外を發したる爲め十五日の東京及大阪の各新聞紙は何れも此が眞否に就き區々の報道を爲したるが某内閣大臣は將來はイザ知らず十五日辭表を提出せりとは事實無根なりと語れり(同上)

▲地方長官の更迭 地方官會議終了後二三地方官に更迭ある筈にて之れと同時に香川、大分兩縣知事の休職となるべし(同上)

▲中央倶樂部の遊說 同倶樂部にては五月上旬より地方遊說に着手し先づ滋賀、香川、群馬、鳥取、福島、熊本、愛知の八ヶ所に亘り支部發會式を兼ね演說會を催すべしと

▲產業組合會議開催 農商務省にては來る五月十三日より向ふ廿日各地方農會及產業組合會議を農商務省に開催するに決定せり(同上)

▲大阪取引所の非難 大阪株式取引所に於ける米穀取引株は今日本協立合前に於て定數により立合を停止する旨場内に掲示したる爲めに非難の聲高し(同上)

▲米國下院議員來期 米國の有名なる下院議員コックス氏は今般來朝の途次名古屋に立寄り共進會を觀覽し十七日新橋着入京す(同上)

▲帝國海事協會總會 帝國海事協會にては來る二十九日第十四回總會を開き總裁宮殿下より有功章を親授せられ尚ほ一日八十餘名に對し夫々褒賞の授與ある筈(同上)

▲故前田判事の叙勲 長逝せる判事前田法學博士は勳二等瑞寶章を取賜はれり(同上)

歐洲電報

▲海員罷業の激烈 佛國馬耳塞海員同盟罷業再び激烈となり遂に市街戰を起すに至れり(十五日)

▲沿海州の漁業問題 露領沿海州漁業區再入札に關しては本野大使露都に到着後直ちに外相イスボルスキー氏に會見し其の旨交渉を爲したる處同國外相は再入札請願の趣旨を諒とし何れ其の旨農商務大臣に報告すべき旨言明したる由なれば近日中其の許否の決定を見るに至るべし(同上)

▲露外相の伊國行 目下獨逸ミュンヘンに滯在中の露國外相イスボルスキー氏は伊國外相ルエャ氏訪問の爲めフローレンスに赴くべし(同上)

▲露國の自由港設置 露都稅關局長の言明によれば露國のリバウ、浦鹽、オデッサに自由港を設置する條項は稅關境界外に倉庫を建設するに在り(同上)

雜報

慘絶極る地方民 平安南道三和府舊邑民は近來瓦葺家屋を藁屋根に葺き代へ居るもの續々たるを以て其理由を調査せしに元來瓦葺は藁葺に比し稅額頗る高きを以て之を葺き代ふれば多大の輕減を得べく又一は生活難の結果該瓦を放賣して糊口の資を得んとするもの少からざる爲めなるが如し漫りに相呼應して獨立を叫びつゝある其一方を顧みれば僅か厘毛の減稅を得んが爲め斯かる姑息の手段を弄し彼等生存競爭場裡に奮鬪的勇氣なき一證なりと雖も又此悲慘極まる現象は須らく爲政家として注意を怠るべからさる事共なり

師團送迎會の準備 京龍兩民團聯合の駐韓師團送迎會は十五日の協議會にて決定したるが會場は京城ホテルにして大尉以上を招待し別に軍司令部員二十餘名を陪賓として招待し主客合して百五十名程の計畫なるが食卓は立食にして模擬店及餘興場を仕遺らへ招待せざる將校下士以下に對して獻餞の酒樽を寄贈し送迎の意を表する筈なり尚ほ停車場には民團及愛婦本部及龍山委員部共同の休憩場を設けて茶菓を饗し幹部の發着に煙花を擧げて敬意を表すべしと宴會の日時は先方と交渉の上決すべしと

師團幹部の着龍 新駐韓軍第二師團司令部は十六日午前八時より龍山へ無事着任せり軍司令部六師團兩民團の出迎盛なりし

●國債報償金と總會 例の國債報償金總合所總會は十六日鍾路商業會議所にて開催せしが出席者は三十餘名にして議論區々に別れ頗る紛擾を極めたり同所長命吉濬の希望は此際各社に於ける醵金全部を統一整理して其行先を明かにし適宜の方法を以て徐ろに之が回收を計り該金の處分に就ては擧げて之を政府に委託せんとの意見なるも元來油蟲の如き連中の集合なれば政府委託抔は到底容れらるべくもあらず則ち永久に曖昧に付し置き私消の機會を待たんと底意あれば該問題は結局正當なる解決は六ヶ敷然れば該問題は依然魑魅魍魎の不体裁を極る耳ならんか

●ロ氏令夫人の人格 今回入京し統監府の優遇を受け十五日東上渡日の途に就けるロビンソン氏夫妻は充分視察の目的を達し且つ我が保護政治の公明正大にして啓發の効果顯著なりしには共に絶大の賛辭を禁し得ざりし如かりしが此間ロ氏は一切政治的談話を避け居りしも唯だ夫人は統監邸の招宴に於て出席の各夫人を捉らへ韓國に於ける風俗習慣を始め宗教學藝等各般の事情を質問し熱心之を研究せんと欲するの情面に溢れ居りしと流石は一世の快傑ルーズベルト氏の令妹なりと孰れも驚嘆せりと云ふ

●蜚語紛々たる全南 全羅南道泰仁地方には近頃忌まれしき蜚語流說紛々として傳はり殊に甚だしきは現李朝は遠からず滅亡し之に代はるものは鄭氏なり而して其都は忠清南道にして不日事實となり顯はるべし抔如何に眞實しやかに流布せられ居れり多少の有識者は斯かる古めかしき流言を一笑に付し居れるも衆愚は之を信じて兎角不穩の模樣なりと云ふ

●流車博覽會發會式 朝鮮新聞社の主催に係る流車博覽會は十六日午前十時南大門驛に於て發會式を擧行したるが當日は非常の人出にて荻谷社長は博覽會開催の趣旨を述べ國民新聞特派員熊谷直亮氏は新聞記者一同を代表して一場の祝辭演說をなし大久保辯護士は實業家を代表して祝辭を述べ終つて立食の宴ありて盛會なりき

●大韓建國義軍組織 近頃浦潮より齎す處に依れば韓國民の排日新聞廢刊後彼等の内部の團結は一層鞏固となり大韓建國義軍の名の下に北韓と浦潮と其附近の韓民の附和雷同するもの約五萬に達し義軍本部は浦潮の各國人に遠慮して近々ハバロフカに移さん摸樣あり首領の手には運動費用の潤澤なるは注意すべしとあり

豪氣堂堂橫大空　日東誰能帝威隆

故樞密院議長從一位大勳位公爵伊藤公之墓

高樓傾盡三杯酒　天下英雄有眼中

春畝公墓前之感 スイロウ生

▲告白す余は過ぎし數日間宴會に忙殺された、宴會は酒を飲まぬ余の心を亂さずして止まぬ、亂されたる心を以て神聖なるべき墓前の感を記するは余の耻とするところだ、之れ余が纖稿を怠つた所以だ。▲墓前に於ける余の感は一にして足らぬ、之れを支那流に云へば萬感交々到ると云ふ所だ、併し余は藤公と何等私的關係を有たぬ、從つて家長若しくは親分として家族若しくは子分等が亡き公に對して起す如き感は余に於てチットも起らなかつた、明言す余の墓前の感は私的何物をも混せざる公的のものであつて直截に云へば前韓國統監たる伊藤公に對する一般韓移住民の感に外ならぬ。▲公は統監として將た一個人として韓人を愛した、公の韓人に對せる愛は其發現に於て時に世人をして不快に思はしむる程極端のものであつた、記者の如きも世人と齊しく不快に思つた一人であつて之に就ては隨分無遠慮な評言を公に浴せた事もあるのだ。▲公は眞實韓人を愛した、其愛するや父母の子を愛するが如くであつた、公嘗に云へり予が韓人を扶導するは一に主上の大命に因ると、主上の大命之れを遂行するは素より公の責任に相違無かつたのである、併し熟ら〳〵惟みるに公の韓人に對せる愛は事實に於て統監服を超脱し主上の大命以外人道の情火が公の胸中に燃ねて居つたに相違ないのである▲公は韓半島を保護國とした、公は大命に基ける統監となつた、併し之丈では公の偉大は平凡なものだ、公は晦黑の境涯に沈淪せる憐れなる半島民族の爲に熱涙を灑いて、斯民を救はんとして半島を保護國とした、而して親ら進んで統監となつた、公が統監となつたのは之を大にしては東洋の平和保持と云ふ事もないではないが其心底に於ては實に前述の通りであるのだ。▲位人臣を極め何不足なき公は三年半の永き面倒に面倒を實驗して韓人救濟の事業に從つた、至誠は天に通ずると云ふ、而かも公の至誠は遂に韓人に通せずして止んだ。▲頑迷なる一韓人は公の生命を奪つた暗殺者は公を目するに韓民の敵を以てした、而も其所爲は天に向つて唾すると同一であつた、古聖曰く人己れを敵とするものの爲に其生命を捨つ愛之より大なるはなしと、我神の如き藤公は最後に於て實に古聖の言を實行したのである。▲淺薄なるヂンゴー者流は公の志を解すべくもあらず、之れ恰も頑迷なる韓人が公の志を解せぬと同樣である告白す余も公の生前に於てはヂンゴー主義の一人であつた、併し今谷垂の墓前に來り公の死に想到するに迨んで昨の非を悟つた。▲韓人救濟の第一義は韓人を愛するとにありだ、之れ我藤公が碧血を以て大書せる遺訓だ、此遺訓や我も人も常に遵奉すべきだ(完)

●吉長線問題の進捗 各國の注意問題たる日清懸案の吉長鐵道問題は士民に對する厚意の爲め工事は清人の請負名義にて五月一日頃決定する筈なるが目下長春には五六十人の請負競爭者集合し運動中の由なり

●葉錢引上數と金額 三月十六日より同末日迄の葉錢引上高は二萬九千百〇五圓余に上りしが當初よりは百五十八萬七千六百貫にして三百十四萬七千〇十一圓に上れりと

●博物館陳列品調査 宮内府御苑事務局博物部長末松熊彦氏外二名は博物館陳列品調査の爲め慶尙北道各郡へ來る二十日より出張の筈

●太皇帝御使の歸京 岩倉公爵逝去に付き太皇帝より差遣されたる侍從李恒九氏は十五日夜歸京す

●日韓瓦斯の送別 日韓瓦斯會社にては近日本國に轉任の岡運輸課長並に今回交代さるべき同社の囑託なりし安島軍醫正を主賓として來る十八日翠雲樓に於て盛んなる送別宴を張るべしと

●韓銀の大運動會 韓國銀行にては十七日午前九時より慶熙宮に於て同行員一同の大運動會を催す筈なりと云ふ

●韓國名士寫眞帖 若林警視總監は韓國名士の寫眞を蒐集して一帖と爲さんとて目下之が材料を蒐めつつありと

●豫備金支出裁可 地方警察署增設費五千六百廿五圓豫備金支出の件裁可

石黒男爵の行程 日本赤十字社常任委員石黒忠悳男は滿韓に於ける社業視察の爲め來る二十一日東京出發旅順、營口、奉天、遼陽、長春を經て來韓する由にて韓國各地を巡視し歸國するは六月下旬の豫定也と

鐵道管理局狼狽 半島鐵道が舊管理局時代より鐵道廳及び現今の管理局を通じて會計の紊亂を極めつつあることとは不絕外間に洩れ聞ゆるところなるが彼の臨津江鐵橋工事に對し大屋長官が巨額の不當支出を爲したることとは隱れなき事實にして右に就ては大屋長官、岡村技師及工事請負者との間に請托の事實ありたりとの疑さへあるを以て今回來城せる古川會計檢査官は鐵道管理局の會計檢査に向つて一段力を注ぐならんとの事なり、右に關し疵持つ足の鐵道會計官等は大に狼狽を極め如何にしてか檢査官の明を蔽ふべき方法もがなと目下對檢査官策に付日夜腐心しつつありと傳へらる

●岩井保安課長別宴 内部書記官兼警視岩井敬太郎氏は過般宮崎縣學務官に轉任さるゝに就き來十八日午後六時を期し翠雲樓に於て送別宴を催さるゝとの事なるが發起人は若林賚藏、俵孫一、武石胤雄、中山成太郎、中野有光、山形閑、松井茂、横寺竹雄、齊木義三、三浦彌五郎、四王天數馬、新庄順貞、平渡信、鈴木穆の諸氏なるが出席希望者は内部警務局中野課長まで申込まるべしと云ふ

●電車團体割引實行 日韓瓦斯電氣會社に於ては學校兒童若くは學生の團體電車乘込に對し特別割引の便を圖り既に其筋に其旨通牒したりしが尚ほ學生外にても一定の集團乘込に對しては同樣の便宜を圖らんとするの内議あり就ては同通知に接すると同時に社員を派し便宜相談に應ずる由

●地方費と實業學校 地方費支辨を以て設立さるべき實業學校は各道とも孰れも熱心準備中にて現に本年度豫算にも夫れ〳〵計上せられたるが今日迄に完成せしものは如左

慶尙北道	大邱農林學校
全羅北道	全州農林學校
同　南道	光州簡易農林學校
平安南道	平壤農學校
江原道	春川實業學校
全羅北道	群山實業學校

●合併問題と協議會 京城民團にては京龍合併問題に關し十五日午後七時より協議會を開きたるが協議の結果曾我、秋吉、皆川、釘本、城の五氏を調査委員に撰定して合併の可否を調査することに決定して散會す

●釜山の韓銀出張所 韓國銀行釜山出張所は十八日より業務を開始する筈なるが就ては從來第一銀行同地支店にて取扱ひ居たる國庫事務は同出張所に引繼ぐ筈にて野阪度支部事務官は十五日出發釜山に向ひたり

●民團協議會の開催 京龍合併に關する民會議員協議會は十五日夜開催せり其結果合併の可否を先決問題として調査すべしとの說起り遂に之に決し調査委員に釘本、曾我、皆川、城、秋吉の五氏を擧げて散會せり

●ロビンソン氏出發 滯京中なりしロビンソン氏一行は十六日午前九時南大門發列車にて出發したるが石塚長官夫妻、津輕伯夫妻其他數多の日韓人は南大門驛に見送りたり

●仁川ホテルの講話 仁川倶樂部の例會を來る二十一日午後七時よりホテル樓上に開き晩餐を共にしたる後和田理學士の三寒四溫、島工學士の石油に關する講話ある筈なり

●鏡城出張所の閉鎖 鏡城韓銀出張所は本月三十一日を以て閉鎖し同業務は咸北羅南に新設せらるべき同出張所に移すべく尚ほ羅南出張所は五月一日より開業の筈なりと

●内部所管廳運動會 内部及所管廳漢城府警視廳大韓醫院各警察署は來月八日慶熙宮に於て聯合大運動會を開き親睦を計る由當日の會員は九百餘名の多きに達すべしと云ふ

龍山 遊廓問題眞相(續) (本社龍山支局報)

藤野氏曰く、凡そ事物に對する是非の意見は之れを理論上より見たると實際の必要を稱へたるとによりて異なる、开は理論と實際とが往々にして相一致せさるより生ず本問題の如きも理論と實際の必要と合致せさる點あり爲めに可否の見岐る然れども必要は必要なり理論は理論なり其可否の決する處は現に龍山に於て三百萬圓内外の資本を投下せる吾居留民をして如何にして其資本の有效なる活動を樂しむるを得べきかといふ實際問題を解決するに在り今假に桃山遊廓に卅萬圓を投じありとせんか其額實に龍山に於ける全資本の十分の一にして決して輕々に看過すべき金額にあらず此場合本業の性質を問ふは既に遲し开は遊廓設置の當初に於て決せられたればなり然れば今日に於ては資本其ものをして働きが滿足に行はるゝことを希望すべきものなり(此稿未完)

●澤田局長の行程 南韓視察中の澤田地方局長には十五日光州の視察を終へ十六日光州を發し淳昌に向へりと

●大内代議士出發 十五日下仁安東丸にて木浦に赴けり尚ほ氏は五月中旬家族引纒め入京居を當地にトする由

●小杉事務官歸任 歸朝中なりし小杉事務官は去る十五日朝歸任せり

▲治外法權▼

東京では萬朝が曾禰統監辭職の號外を出して發賣禁止を喰つた、燈火の將に滅せんとするや一寸景氣が付く曾禰さんも辭職の號外を出されて一寸景氣が付く▲辭表呈出が嘘だ本當だと今頃騷ぐのは野暮の骨頂だ、知らずやドルトル小山はトーの昔し曾禰さんの病氣を不治の胃癌だと宣言した、其時既に阿彌陀樣の許から迎ひの使者が出發した▲桂と曾禰とが對韓問題に付て意見を異にすと、浮言も茲に到れば滑稽の極だ、一体曾禰に何の對韓意見がある、彼が統監になつたのは素々桂の御情で、彼の爲すべきことは桂の命を受けて動くまでゝあつた、ソレに何ぞ對韓意見を異にすなぞと、若し當人の口でホザイたとすれば僭越の段聞捨てにならぬ▲[illegible]統監中が大分ある、此連中は弄花の相手、妾の氣嫌取り、情元の世話役等で今日まで統監の威光濫用に勉めて來た、曾禰さん去れば此連中は木から落ちた猿同樣になるのだ、ドウか一日も早く此連中の泣面を拜みたいものだ▲ソコになると小宮さんは早い伊藤、曾禰關係の文太君や末松君や又男君は秋の扇今は切りに兒玉伯取込に腐心しつゝあるとの事だ、云ふ迄もなく兒玉伯の夫人は寺内陸相のお孃さんだ、彼は此れ孃さんに縋つて飯の種を維持ショウとするのだ▲度支部金融組合は大した事は無い樣だがソレでも過去一ヶ年間に相應の成績を擧げた樣だ、何と云つても對韓人の仕事は空論を避けて彼等の胃の腑を厚遇するに限る、目賀田君から荒井君と花より團子主義を實行しつゝあるのは感服の至りだ。

名妓洗髪のれ妻(二)

▽世間は廣いやうで狹い ▽水の流れと人の身の上

世間は廣いやうで狹い、廻り合せといふものゝ尋ねる叔父は尋ねられる私がゐる家に宿るなんて因縁ですね其れで叔父が着くと其の晩女將を呼んで實は私は斯れ／＼の者だが、斯ういふ娘が烏森で藝者をしてゐるといふが是非國へ呼戻さねばならぬのぢや、何うか骨を折つて探して呉れないかとの頼みなんです、ただ女將さんは何うしてたよねとの話もあり、且つ私に惚れ込んで自分から離さないのですから、へイ一つ心掛けて探しませうとかなんか、口では云つてるものゝれ腹ぢや大變なものが飛込んで來た、れつまを何うして隠し終うせやうかと考へてゐたさうです▲そんな有樣ですもの、叔父が一ヶ月ばかり吾妻屋に泊てゐましたつて、尋ね出せやうがありません、私が桝田屋にゐちや、吾妻屋とは一つ家同樣だといふので叔父が着いた翌日直ぐ飯田町の奈良原繁さんのれ宅へ預けられましたが、夫れで可笑しいのは稼業を休むのでは無くて、奈良原さんの御宅で泊り切りで、其處から御座敷へ出て座敷から座敷を渡るのですが暢氣なものでしたね▲何時かズット後年中の事ですが、桝田屋さんに佛事があつた時れ女將さんが私を捉へて此當時の話が出てつく／＼と云ひましたよ、れつまちやん私あ、あの折の事を考へると罪な事をしたものだと思ふね、もしあの折りに私の心が一つ動いて御前さんの叔父さんに此れ此れだと云つて了まへばれつまちやんも今のやうな事が無くて何んな立派な人の奥さんになつてるかも分らない人の身の上と水の流れといふが分らぬものだよと云はれた時には、如何な私でも厭な氣持で氣が斯う細くなりまし

かよ▲私が又何故特に奈良原さんのれ宅へ預けられたかといふと、私が披露目の時の話を爲ないと筋が通りませんがね、私の披露目は人とは違つて變な工合式でしたといふのも、奈良原さんが元でさうなつたのです、私が桝田屋を出てれ茶屋や待合へ挨拶に行かうと思つて、出雲橋を渡つて今の加藤病院の處へ差蒐ると前方から俥を飛ばして來る人がある。

珍説振られ婿

▽四十一圓のれ聟さん

京畿道水原郡三峰内洞里居宋順文(五〇)の妻李姓女(四〇)と云ふは九年前先夫鄭某に死に別れたるものにて世話するもののありて順文に再嫁したる者なるが此れより先き先夫鄭某と李姓女の間に生れし運興女(本年十七歳)と云ふがありしも同女が六歳の時尙州の或る兩班の宅へ四十一圓にて賣り飛ばしたり間二年隔き同女が九歳の折鄭某は死去したるより李姓女は一度住地水原を去りて京城北部昭格洞五十二統八戸に沈遠鵬なる知人を頼りて一時身を寄せつゝある間に語るともなく前記運興女の一埒を話したるに之れを聞きたる遠鵬は开は哀れの事なり自分に於て四十一圓を辨金すべければ娘として自分に與れずやとのことに李姓女は願ふてもの事なりと承諾したるに沈は人を尙州なる兩班方に使はして右運興を取り戻したるは即ち同年中の事にして同人九歳の時なりき沈姓女と運興女とは足掛け三年振りにて親子同棲することゝなりしも暫しの間李姓女は順文に再嫁したれば運興は遠鵬方の娘として今年十七の春を迎へたるなり然るに一方順文は又右の話を妻なる李より聞き夫れは良れの事なり幸ひ自身には實子なければ手許に引き取り養子ともして死水を取つて貰ひたしと尤もなる希望に李姓女も同意し婿の候補者李某に四十一圓を持たせ遠鵬方に同女引き渡し方を申込ませしに遠鵬は九歳の時より十七歳の今日迄手塩に掛けて育てたもの如何に何んでも引き渡し難きのみか既に彼れか此れかと婿撰みした結果漢城官立師範學校の小使韓聖寛(三一)といふと婚約整ひ兩三日中に擧婚の事に決定し居ればとい一方李某は自分も引き取り歸り次第擧婚の手筈なりと云ひ募つた揚句中部署に裁判方願ひ出でたるにぞ本人を召喚して其の意思を慥かめたるに田舍に行くは厭聖寛さんが一番好きと眞赤になつて言ひ切つたるに此れには何うも手が附けられず李某の方はスゴ／＼四十一圓の金を持つて盡々水原へ

逆戻り

主事妻君の不埒

▽待合嬉野の女中となる ▽亭主の留守に失敗する

度支部主事安藤某と云ふは昨年七月頃同主事を拜命し愛し可愛の艶女房れすみ(三〇)と共に瀛車に乘り瀛船に搭り海を渉り山を越へ南大門へ到着し人力車に乘つて三日月旅館へエンヤラヤツさ

……棒して居たれど五日六日と經つに從つて何んだか物足らない夫れなら何が物足らないかと聞かれては困るが物足らない、所で同宿の男客で矢張り物足らない人と懇意を結び夏の日永の徒然を浮世話しや人の噂で消して居たが夫れでも未だ双方何んだか物足らない所から何方から何う口を切つたか手を出したか、怪しい交情と成つて終つた成つて終つて見ると過度は秘密で、コツ／＼行つて居るのでは物足らない其所で御亭主安藤君の面前をも憚らず巫山戯るので惚れて居る丈け安藤君のチン／＼も劇しいヤッサモッサの揚句が貴君の樣に疑ぐり深い方と一緒に居ることは厭です何うかれ暇を頂戴きたいと不貞腐られて見る日になると如何に戀女房とは云へ男として厭とは云へず書いて與へた三行半を引つ攫んだれすみさんは永樂町一丁目の待合嬉野に住み込んで呉越の客を送り迎へ時々は戀しい情夫を呼び寄せて至極物足つて居る間何う云ふ風に話に縒が戻つたものか安藤君の方へ歸ることに成り目下以前通り同棲して居るが矢張り何うも物足りぬので安藤君の隙を覗つては嬉野時代の馴染客や三日月時代の情夫と盛んに失敬して物足つて居るとは不埒の事也

女振り

田中はま女

度支部建築課の属員北條某の内縁の妻である、と云つても知つてる人はあるまいが其の猛烈なる山の神振りは慥かに紹介の價値がある、生れは熊本縣の喜々津とか船津とかで親父と云ふは系圖正しい先祖代々其の日暮しの漁夫である、或る夜の事母親が孕の蝦を食べたと夢みて孕んだのが此のはま君である相な、夢のれ告は顯著なもので生れながらにしてとンシャンたるれ跳であつた、はま君が十八の時に親父は死んだ、母親一人と見縊つて其の後浮氣の仕放題を盡し流れ／＼て臺灣へ押し渡つたのは十六七年もの前の事である、今の宿六北條さんとは此の時夫婦に成つたのである、夫れから後のアレコレは抜きとして夫婦手に手を取つて京城に來たのは何んでも四十二年の八九月だ相な、其の亭主使ひの荒いことは夥しい、落語家の所謂グズ滑の噂以上である、朝飯は北條さんが炊くのである、膳立ても北條さんがするのである、れ辨當も北條さんが詰めるのである、はま君は可愛い御亭主の拵へた朝飯を美味く召し食つて後は一日腹こなしに御近所を喋々回つて御座るのだ、日曜祭日は北條さんの洗濯日である、御自分の仰云る所に依れば年は三十九だ相だが實は四十五であらう、花も茶も免許取りで琴も相當に彈けるさは此れ又御自分の仰云る所であるが北條さんには夫れよりは飯が炊ける方が調法であらふ、とは他人の餘計な心配で有る事も無く宿屋のれすみさんは毎日からは毎日／＼の役所通ひ留守居のれすみさんは二日や三日は飯を神妙に食べても仰云つた「人は麵麭のみにて活くべからず」と夫れでもれ節前疲れたらう男の巳つたもの頭が痛めば揉む所が宜しくわつて翌／＼の……

た金を送つて頂戴な

▽の手紙で所在判明

當時櫻井町一丁目四十九番戸住揩物業笠原伊助内縁の妻瀬戸きんと云へるは去る四十年十一月下女奉公稼を目的として郷里佐賀縣東松浦郡玉島村大字淵の上を跡にして渡韓したるものなるが同人全体何う云ふ量見か爾來一切音信不通なるにぞ實兄島太郎は云ふに及ばず親戚一同も大に心配し居たるが本年三月十六日に至り突然郷里へ向け送金方申し送りたるにぞ茲に初めて居所判明したるより實兄島太郎より旅費を添へ中部署へ向け歸省説諭方願ひ出でたるにより同署にては本月十四日本人を召喚し懇々其の不心得を諭し來る二十日を限りて必ず一度歸國すべき請書を提出せしめたりとか調べて見れば此樣のが隨分外にもあることなるべし

日韓瓦斯社員の亂暴

▽機關工手安元祥の事

日韓瓦斯株式會社機關工手安元祥と云ふは持つて生れた飲助なるが授業中も監督の目を盗んでは洋盃酒に醉つぱらつては醉狂することも度々なるが去る頭東部案信坊上伏車橋十三統三戸酒商金昌植(三九)方に至り飲酒したる代金三十錢を支拂ふことに取り極め立ち去りたるまゝ其の後一向支拂ふ模樣を見せざるに昌植は業を煮し居たるが去る十二日の夜伏車橋の飲食店李方にて同人が飲食し居る所へ行き合せたるを好機とし例の三十錢を催促したるに安は懐中より少なからぬ金錢を取り出し昌植の前に列べさて云ふ樣金は此の通り持つては居れど生憎だが貴樣に遣る金でない元來酒ふ位なら貴樣の家で飲むものかと傍若無人の暴言を吐き散らすにぞ昌植は赫となり馬鹿にするなど怒鳴りつけたるに安は突然立ち上り無法にも其の場に在り合はせたる木製の鑵入箱を取るより早く投げ付けたるに不幸にも昌植の面部に的中し負傷せしめたるにぞ直樣東部署に引致せられ取調べの上笞刑六十を宣告されたるを六圓の科料に換刑せられ嚴しい説諭を受けて引き取りたるは悧巧の人の爲る業にはあらずと知るべし

◎時事俳評　千春

△京龍民團の合併
敷き足して賑ふ花の莚かな

△鴨緑江架橋協約
蝸牛の角折る松の雫かな

△龍山遊郭問題
鋒へよ蝶三坪にたらぬ庭ながら

△金筋の大檢擧
朝風呂の素肌に寒し初袷

●強盗犯の處刑

京畿道龍仁郡蒲村面草下里一統一戸金君日(三四)は明治四十一年舊八月十日の夜氏名不詳韓人二人と共謀し朝鮮刀を携へ龍仁郡蒲谷面祭盤里李化鳳方に突入し家人李鳳鉉を刀にて毆打し脅迫を加へ寢具外四點を強奪し一時逃走し居りしに本年二月中逮捕せられ京城地方裁判所に於て審理中の所十五日懲役三年に處せらる

●仲居連の協議會

仁川民會の決議に依り本月より各料理店の仲居に對し月税二圓宛を徴集する事に決したる由を聞くや然なきだに不景氣の折柄多分の税徴にもあり附かぬ各仲居連の恐慌一方ならず寄々青い息吐くを見たるが近々仲居大會とも云ふべき集會を催ふし右に關する打合せを爲すとは滑稽

●清國人の變死

十四日午後四時頃北部城外七嶋延禧坊合井里に一人の清國人變死し居る旨急報に接し北部署に於ては清國巡視廳に急報し同伴にて現場に檢視せしに三十二三位の男盛死し居り他殺の形跡あるより目下北部署にて嚴偵中なりと

●猛犬の診斷

蓬萊町一丁目一番戸の三荒田繁方の飼犬は度々通行人を咬傷する由聞ゆるにぞ狂犬病流行の當時打捨て置けず西部署にては獸醫をして檢診せしめたるに狂犬にはあらざるも性質獰猛なるより繋留方を嚴命せりと

市井雜聞

●運動　仁川警察署員運動會を本日午前十時より平洞裏手の廣野にて擧行する筈なるが種々なる餘興の催しもあると云へば定めし盛況を呈することならん

●拾得　仁川外洞居住の趙明山(三〇)は十四日京町にて護與靴一足を同京町末松吉江(一三)は龍岡町にて毛糸製小供頭巾を拾得仁川署に届け出でたりと云ふ

●窃盗　仁川金谷洞朴致先(四二)と云ふは一昨日仁川驛構内に積みある運送組合保管の貨物箱中より木綿一反(價一圓廿五錢)を窃取逃走せんとして捕る

●亂暴　仁川港碇泊中の三陽丸乘組中尾喜武(三〇)は十五日午前三時頃迄に宮町の飲食店一二三亭に一圓六十錢丈を飲食して無錢擧行に及び結局説諭濟

●檢黴　仁川敷島遊郭の檢黴を一昨日行ひたるが受檢者六十名の内朝日の小圓敷島の千良は兼て休業中の處就業し敷島の春子は洗滌を要すとは險呑なり

●日曜集會

京城基督教會日の出町同教會にては本日曜日午前九時より日曜學校同十時より禮拜説教夜午後七時半より傳道説教あり其演題左の如し
朝「福音の福音」米澤牧師「轉心の眞意」米澤牧師

目と耳

▲壽座の蓋明け　休場中なりし當地壽座は今回大坂舊俳優中村芝十郎、同歌好、澤村四郎五郎、嵐佐十郎、澤村竹三郎、山村内匠之介の外に當地には古きれ馴染の中村林昇が玩若と改めて一座に加はり來る十八日より開演する筈なるが屢々好劇に渴したる事ぞて定めて好評を博するなるべし

▲學生と活動寫眞　此程歌舞伎座に興行中なりし東京中心會は過日韓皇室に於て活動寫眞を御覽に入れ頗る叡賞に與り種々御下賜杯賜はりたるを光榮とし韓國學生に無料觀覽の爲め本月十六日、十七日の兩夜長安座にて開場すべし

今日の運勢

四月十七日舊三月七日七赤先負壬子成八専の入△一白盛運日なり大抵吉紛議紛料事後解決に忌む△二黒誘惑に罹り易しとす家政上の事に煩累あり△三碧見込違多し賣買取引貸借に注意し紛事手控への事紛失色情の難防ぐべし△四緑 共同養子婚姻連盟の事には吉其他凶新事は日合せ盗難恐るべし△五黄 貸借保證事間違ひ易し寛裕に失して失却あり△六白 轉業轉住吉不意の艱驗若くは係累起らん△七赤 自他の口舌の難起り易し盗難遺失を防ぎ新事見合せの事△八白 他人のため勞することと多し其他快欣の日なり△九紫 新事見合すべし尙旅行貸借談合に不利
四月十八日舊三月二日八白佛滅癸丑納土用△一白 前後山河を狹む如く艱難多き日なり狩成に利あり遺失盗難注意すべし△二黒 勞して後効有る日とす撿分視察探險開店業に宜し△三碧 特異の音信に接するあらん爭論負傷避くべし△四緑 物事不成効の日なり開店業務行に凶色情酒害を戒しむ△五黄 紛失若くは疎漏ある勿れ其他平靜△六白△七赤 交通に吉日なり大抵吉色情に慎み破れを戒しむ△八白 保證世話事其他人の爲め煩累係累多し新事及變更の事凶△九紫 隆升の日なり事業始め建築不動産の賣買尤も可但し旅行を忌む(本町五丁目三一館判斷)

●天氣豫報(自十六日午後六時至十七日午後六時)
南西風晴れ後曇
十五日(華氏) 最高温度 六三、一 最低温度 二八、八

美術半襟帶締其他紐類各種
京城明治町一丁目
電話一千四百〇九
ゑり徳商店

廣告

電話一一八二番
よちや
金高の多寡に拘はらず十二分の御便利を圖り迅速御相談に應ず質物は叮嚀に取扱ひ極めて安全に一定の場所に保管す
京城曙町
大槻商行質部
流質品と雖も場所の許す限り可成長期間大切に留保し萬遺漏なきを期す

內科
小兒科
多々見醫院
入院隨意
京城日の出町小學校前
電話九百四十番
從七位勲六等 前大韓醫院醫官兼同附屬醫學校教授 醫學得業士
院主 多々見五郎

日本の二大賣藥
(梅毒新藥)
代理店
京城南大門通三丁目
新井藥房
電話九百四番
振替口座韓國千六十八番 十六番

移轉廣告
美術 水晶篆刻……印章ゴム印 版木其他一切
轉居の爲め祝意を表し水晶時計さげ(縁紐)印一千個に限り一字二字刻印材共
大減價金壹圓也
京城明治町(明洞)二丁目七十九番戶
諸官衙御用
印舖 金石山房
最上樓堂

消毒牛乳(保證附)
フレッシユバター(新鮮)(乳油)
韓國畜産株式會社
南大門外 電話八八番

內科
小兒科
外科
梅毒
淋病
入院隨意
京城櫻町三丁目
高井醫院
電話(二一六)
院長 陸軍軍醫正 高井貞治

つきやく
月經不順
產前產後
血の道
頭痛
逆上
十年の血の道も三週間で全治

中將湯
PREPARED BY TSUMURA CHUJOTO

本舖 東京日本橋區 津村順天堂
大阪支店

明治廿年七月創立
東京火災運送海上保險株式會社
資本金一千萬圓
京城代辨店 本町四 山口吳服店 電話九番
事務所 京城南大門通二 電話一〇六〇番

諸荒物世帶道具一切
其他和洋蠟燭
アサヒ ビール
サッポロ
精白米
右大勉强仕候に付陸續御用命仰付られ度伏奉願上候
京城本町六丁目
日用雜貨 御問屋
西崎嘉七本店
電話二一〇 電略(ニカ)
振替貯金口座韓七番

時節柄敷物及夜具等新調仕り室內の設備も相整申候御客樣に對しては叮嚀親切を旨とし調理の義は從來よりも一層勉强可仕候間倍舊の御引立奉願候
京城南山町四丁目
原金旅館
(電話一一一五番)

諸官衙御用品調達
營業科目
和洋紙類
印刷附屬品
印刷インキ
和洋書籍
防腐ヂシン
穀物食鹽
諸染料類
委託販賣
東京ランバート商會代理店
東京中外アスファルト株式會社代理店
東京千代田生命保險相互會社代理店
東京博文館發行書籍特約店
東京金港堂發行書籍特約店
釜山鹽組合聯合會社食鹽特約
藤田合名會社
本社 京城明治町二丁目(電話二三〇番)
出張所 東京京橋區南鍋町一丁目(電話新橋三六九二)

井平商會

紙と印刷
諸紙 和洋帳簿 印刷 各種製本
諸官衙御用
播本商店
京城本町六丁目
電話百拾番

無報酬出張女教師付き
シンガーミシン
月賦販賣開始
目錄及び定價表無料にて呈送す
詳細は左記へ御照會被下度候
京城西小門內
シンガー裁縫機械會社
京城支店
電話一五七五番

旅館
京城ホテル
京城南山町三丁目
電話長一二二三番 四九二番
日本室和食
特等(三圓五十錢)
一等(二圓五十錢)
二等(二圓)
三等(一圓五十錢)

各科診療
松岡醫院
南山町二丁目
電話六七五番
入院隨意

胃腸新藥
ヌカヂアスターゼ
韓國總代理店
仁川本町二丁目電話八五〇番
竹田津三平

ASAHI BEER
SPECIAL LIGHT PILSENER BEER
DAI NIPPON BREWERY COMPANY LIMITED TOKYO

眼科專門
京城本町一丁目憲兵分遣所前
江頭眼科醫院
(電話三三二)
前漢城病院眼科部長 醫學得業士 江頭富雄

入院隨意
京城西小門通六番戶
菅醫院
電話一三二一五番

入院隨意
京城壽町三丁目(電話三七八番)
中島醫院
院主 醫學得業士 中島貞信

大韓醫院指定御用
消毒 牛乳
京城太平町
荒井牧場
電話一〇五

三一館
相易斷觀
館主 土御門派大陰陽師
京城本町五丁目

龍山榮町
青竹 薪炭 質屋
ガラ 石炭
蒲團 蚊帳
角屋

皮膚梅毒
泌尿生殖科
眼科外科
十字病院
龍山老松町
(電話三二四)

めし道樂
鯛 松たけめし
あなご 竹の子めし
鷄 ゑんどうめし
一人前三十錢
たなしく
たなじく
撰てたなじみの大阪美人、御光來の程を待ちかねて居りますから、御賞味を賜はりたう、尙ほ多少によらず出前も仕ります、與々も御用命伏して御願申上げます
大和町三丁目
梅の家眞向ひ
電話七三五番
明月

大 ⌂ 惠
特約販賣自製
味噌醬油製造元
漬物問屋
京城本町五丁目
大上商店
(電話二五一番)
支那白菜漬
朝鮮菜葉漬
大賣出し

金魚各種
卸小賣
陸軍御用達
馬木勇吉本店
龍山山下町一丁目(兵器支廠官舍入口)
電話三六四番
茶器商
馬木勇吉支店
京城本町五丁目一番戶角
電話四七一番

牛乳 牧場